

2014年ガザ戦争 緊急支援記録

パレスチナ・ガザ地区
ガザ市、ハンユニス市
ディル・アル・バラフ市

2014年7月～2014年12月
JVCパレスチナ事業



日本国際ボランティアセンター



2014年7月8日(空爆開始直後の様子)
AEIスタッフ関係者が自宅より撮影

7月：緊急支援要請直後

緊急支援の要請の第一報が届いたのは、まさに開戦直後の8日、またJVCで実施承認が出たのが15日のことだった。下記写真は支援を開始した当時の様子。パートナー団体AEI(Ard El Insan:人間の大地)クリニックでは一次医療診療、避難所へは生活用品等の配布を開始した。

クリニックで診察を受ける子ども(下)。AEIは戦争中殆どの時期クリニックをあげていた。衛生状態が悪化するにもなって、皮膚病と下痢の子どもが急増した。



また、戦闘開始直後から域内避難民も急増し、避難所となった学校では生活物資が不足したため、物資配布も行った。当時は国連による支援体制も整っておらず、AEIでは支援が行き届いていない、ガザ市の避難所となっていた私立の学校を中心に配布を開始した(上)。※国連が支援していたのは、パレスチナ難民救済支援機関(UNRWA)の学校のみ。

クリニックでの活動

AEIは普段子どもの栄養失調、シリアック病、糖尿病など、栄養疾患の患者を中心に受け入れているが、戦争中はそれに問わず内科診療を行った。またクリニックは、避難所への物資配布の準備の拠点となった。左右は配布物資を準備するスタッフ。中央は外来受付の様子。いずれも7月中



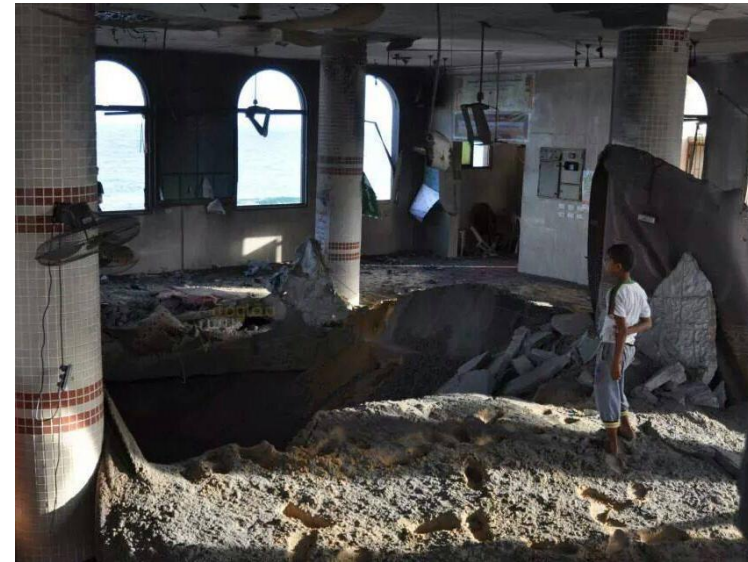
8月：戦闘の激化と避難所の活動の増加



7後半からの地上軍の投入に加え、8月は戦闘が益々激化し、数日間の停戦も繰り返された。この間AEIスタッフの被災が相次いだ。家族を失うものや、家を壊されるスタッフが出る中、緊急活動が続いた。

これら写真は、いずれAEIスタッフ自身が撮影したもの。右上は不発弾、右下は破壊されたモスク、左は破壊された家屋。

この間、イスラエル側からは6.6万発、パレスチナ側からは6千発のミサイル等の攻撃があった。不発弾は7000発以上になると言われている。



医療施設等の相次ぐ被害

また、今回の戦争中は医療施設、学校などへの攻撃も相次ぎ、全・半壊の被害を受けた病院等は62ヶ所、破損・破壊された救急車は47台にも上り、多くの医療従事者が亡くなった。左は空爆された救急車。搭乗中の患者、救命士は即死。右は身体障がい者ケアを専門にしているワッハ病院。全壊で、医師一人が亡くなった。



AEIのクリニック前でも砲撃あり

また、ガザ市にあるAEIのクリニック前でも砲撃があり、通りかかった2名の男性が亡くなった。女性と子どもが多く通うクリニック前を狙ったもので、非常に卑劣である。



砲撃の衝撃で窓ガラスの割れたAEIクリニック(左上)



砲撃は一発だったが、中から無数の小さい銃弾が飛び出る仕組みで、クリニックの壁にも無数の穴が開いた(中央上)



中央に見えるくぼみがミサイルの後。これによって、2人の男性が亡くなった(右上)

スタッフの必死な活動が続く



スタッフは数日間の停戦の合間を縫っては避難所となっていた学校や、拠点であるクリニックに通い、診療の他、衛生キットの配布や、衛生講習・子どもたちへの精神ケアセッションを行った。8月の時点で死者数、域内避難民の数はうなぎのぼりで、55万人の域内避難民が避難所にあふれた。その数は、ガザ総人口の3分の1にあたる。避難所では、夏期であったこともあり、当時の避難所の状態は劣悪で、一次はコレラ患者が出たとのうわさもあったほどだった。



クリニック(左上)、衛生講習(右上)、子どもの精神ケア(右下)

26日長期停戦合意

待ちに待った長期停戦合意は8月26日だった。8月21日～停戦日までは、まさに最悪の期間で、ありとあらゆるものが破壊された。その中には、大学、工場、車、なども含まれる。一説に、恐怖心を植え付ける事と、使用期限が迫った武器の廃棄が目的とも言われているが、この間AEIクリニックの医師の家も全壊になった。



破壊されたクッキー工場(左上)、自家用車(中央上)、大学の図書館(右上)

9月：JVC現行事業「子どもの栄養失調予防事業」事業地の安否確認と緊急支援の継続

JVCスタッフのイスラエルからのガザ入り許可が下りたのは9月17日のことで、ガザ入りが出来たのは22日の事だった。停戦後は緊急支援の継続と、現行事業地の被害状況、ボランティアさんの安否確認を行った。現行事業地での被害は家屋全壊が3件、支援対象の子どもの死亡が1人、親の死亡が1人であったが、ボランティア30人の無事と、戦争中の状況に関する情報交換を行った。左下は破壊された現行事業地の家屋、右下はボランティアさんとの会合の様子。9月撮影。



AEIを通じた緊急支援の継続と、新たな支援先の調査



9月22日に戦争後初めて現地入りしたJVCスタッフは、1) AEIを通じて行っていた緊急支援の活動視察、2) 戦争中に活動要請のあった、ガザ地区中部ディルアルバラフ地域で活動するボランティアチームからの聞き取り調査、3) 現行事業地域視察を行った。また、2)を通じて新たな支援が出来ないかを検討した。

10月：現行事業の再開とEHSTとの連携開始

10月1日には、9月にJVCスタッフが直接行った現行事業地の視察、ボランティア・スタッフとの面談を踏まえて、現行事業を再開することになった。またEHST（Emergency Humanitarian Service Team: 緊急人道支援チーム）との活動に向けて、調整を開始。特に中部ディル・アル・バラフ避難所での医療診療を開始する方向で動き出した。AEIとは現行事業活動の再開の傍らで、シュジャイヤで移動診療サービスを実施した。



AEI シュジャイヤでの移動診療の様子(左上)

EHST ディル・アル・バラフの避難所の様子(中央上)

再開した子どもの栄養失調予防事業、体重をはかる女兒(右上)

11月:EHSTとの活動開始

11月はAEIを通じた緊急支援を終了し、15日からはEHSTとの一月間の活動を開始した。活動は主に、医療診療、女性たちへの衛生教育、子どもの精神ケアセッションで、避難所にいた900人前後が対象であった。停戦合意後3ヶ月を過ぎてくると、避難所で暮らす人々にも多少の安定がみられるようになったが、冬が近づくにつれて、風邪などの症状も多くみられるようになった。



EHSTを通じたディル・アル・バラフ避難所の一次医療診療の様子(左上)
同避難所の人たちがもともと暮らしていた破壊された家で話を聞くJVCスタッフ(中央上)
同避難所の人たちがもともと暮らしていた地域の全体像(右上)

EHSTの活動



EHSTを通じた緊急支援、子どもの精神ケアセッション(右上)、女性たちへの衛生教育(左上)、おむつなどの配布(左下)の様子。

12月：EHST事業の終了と、現行事業への集中

12月14日、EHSTとの一月間の活動を終了し、AEIと行っている現行事業の活動に本格的に移行、2014年度の緊急支援を終了することになった。



現行事業ボランティア30人への中間研修の様子
(左上)

現行事業、2014年度から加わった、幼稚園児への衛生・栄養教育の様子(右)



メディア等を通じた発信

またJVCパレスチナ事業スタッフは、啓蒙活動のために、多くのメディア・季刊誌等への発信を行っている。また同理由にて、講演会なども多数実施している。下記はメディア等掲載の一覧、次のページは講演会一覧

掲載日	種類	掲載メディア	掲載・紹介
5月10日	新聞	北海道新聞	今野
7月11日	インターネット	Independent Web Journal	金子
7月16日	テレビ	TBS「NEWS23」	金子
7月16日	インターネット	日刊SPA!	金子
7月21日	インターネット	Independent Web Journal	今野
7月21日	新聞	赤旗	今野
7月23日	インターネット	日刊SPA!	金子
7月25日	ラジオ	MBS「報道するラジオ」	今野
7月29日	インターネット	時事ドットコム	金子
7月29日	雑誌・ネット	日刊SPA!(8月5日号)	今野
8月1日	テレビ	NHK「News Watch 9」	金子
8月2日	ラジオ	TBSラジオ「久米宏ラジオなんですけど」	今野
8月4日	新聞・ネット	埼玉新聞	金子
8月5日	新聞	平和新聞(日本平和委員会・発行)	今野
8月6日	テレビ	NHK「18時のニュース」	今野
8月8日	インターネット	r-lib	並木
8月13日	新聞	赤旗「ひと」欄	金子
8月15日	新聞	朝日新聞千葉版	今野
8月15日	新聞	ふえみん(ふえみん婦人民主クラブ・発行)	金子
9月1日	ニュースレター	JP通信(188号)(日本カトリック正義と平和協議会)	金子
9月1日	雑誌	まなぶ(9月号)(労働大学出版センター・発行)	金子
10月1日	雑誌	女性のひろば(10月号)(日本共産党中央委員会・発行)	今野
10月1日	雑誌	マガジンハウス「BRUTUS(ブルータス)」	金子・今野
10月19日	テレビ	Palestine TV	金子
11月1日	ニュースレター	アユス仏教国際協力ネットワーク(112号)	今野
11月26日	雑誌	青淵(渋沢栄一財団・発行)	今野
12月1日	ニュースレター	大阪YWCA(630号)(大阪YWCA・発行)	金子
12月1日	インターネット	時事ドットコム	金子

講演会等を通じた発信

開催日	タイトル	登壇者	開催場所
4月24日	NGOイクメン海外駐在員の暮らし	今野・並木	JVC
4月24日	パレスチナを知る	並木	獨協大学
5月17日	JVCと考える人道支援～NGOの挑戦～	金子・並木	JVC
5月22日	「パレスチナ人」「イスラエル人」を体験するプチ・ワークショップ	並木	JVC
6月10日	封鎖という暴力に向き合って(ゲスト:岡真理氏)	金子	ラーニングカフェ
6月11日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	ロイヤルパーク・ホテル
6月19日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	新潟大学
6月26日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	WE21海老名
6月27日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	WE21旭
6月29日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	聖アンデレ教会
7月8日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	立教大学
7月9日	パレスチナ・ガザの人々に寄り添って	金子	工芸高等学校
7月17日	軍事占領下のパレスチナ:人権の今(高橋宗瑠氏講演)	今野	JICA地球ひろば
7月21日	NGO緊急集会とキャンドル・アクション「STOP! 空爆～ガザの命を守りたい～」	金子	明治公園
7月24日	被占領パレスチナの人権状況と国連とNGOの役割(高橋宗瑠氏講演)	今野	東京聖アンデレ教会
7月30日	パレスチナ・ガザ地区における人道の危機と援助の現場	今野	大阪市立大学
8月7日	人道支援団体スタッフが聞いたガザの叫び	今野	ラーニングカフェ
8月8日	パレスチナの現状！繰り返される悲劇なぜ	今野	スペース銀河(淵野辺)
7月29日	映画「自由と壁とヒップホップ」緊急上映会	今野	山羊に、聞く?(代官山)
8月28日	仏教者はガザの人々の苦しみにどう向き合えるのか	今野	月の砂漠(池袋)
10月3日	WE講座:パレスチナ・ガザ事業報告	並木	フォーラム・南太田
10月30日	アラビアレ스토랑でバグダッドのパレスチナ人に聞く	並木	月の砂漠(池袋)
11月15日	リベラルアーツ講座:中東での「平和」のかたち	並木	東葛飾高等学校
11月26日	『オマール、最後の選択』先行特別上映会	金子	立教大学
11月29日	ガザ復興に寄り添う～NGOスタッフが見た人々の姿と展望～	金子	JVC
11月30日	国際理解連続講座 第1回 パレスチナ編	並木	鹿児島市社会福祉協議会 ボランティアセンター
12月3日	ガザ緊急支援報告	金子	ロイヤルパーク・ホテル
12月5日	ガザ緊急支援報告	金子	フォーラム南太田
12月7日	食とお酒から知るパレスチナ パレスチナを知る	並木	世田谷文化生活情報センター
12月21日	パレスチナを知る	並木	日本映画大学
1月8日	パレスチナ・ガザ現地状況と緊急支援活動報告会	並木	パルシステム東新宿本部
1月11日	サッカー・アジア杯・対戦国を知ろう	並木他	JICA地球ひろば

